

歓迎されないもの

1. ヤマナメクジ

音も立てない、色にも気付かない、踏みつけるとそのボリュームを感じてぎょっとする怪物です。動いている場面より、ゴロンと転がっている姿に出会う機会が多いのです。鶏のささ身2本分くらいの大きさと太さです。

体長10cm以上といっても動く時は20cm以上の長さにもなり、巨



大なナメクジに驚かされます。シイ林の下、落ち葉の積もっている部分の色と同じ色彩・濃淡で、樹幹にいる場合もあります。ヌメヌメは割合に少ないのですが、這った跡はやはり光る筋ができます。



餌はコケや落ち葉、特にキノコを好むらしく、キノコのあたりで見たとの情報があります。写真は、夏に生えるキノコであるイクチの仲間の大型のアカヤマドリを食べている個体です。このキノコは遊歩道沿いに毎年かなりの数が出現しますので、ヤマナメクジを探す手がかりになるかもしれません。

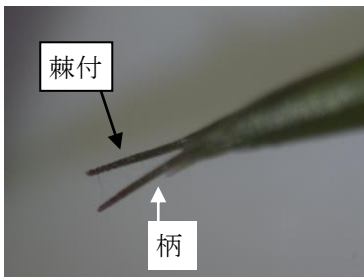
2. ササクサ

遊歩道を歩いただけでズボンにたくさんの「ひつつき虫」が付きます。少し明るい草むらに入ろうものならなおさらです。その中でも、後で取りにくいのがササクサです。

葉がササに似ているところから名付けられた多年生の草で、毎年同じ場所で被害に遭います。葉だけの時期は気にならないのですが、穂が出て実が熟してくると、重さで傾いて道に被さってきます。通りかかる動物を待つ姿勢になるのです。

種はイネの籾殻に相当する細長い穎に包まれています。先端には実らない花の穎が小さく変化した細い柄がついていて、この穎の小さな棘が逆むきに付き、もどしとなっています。

この部分が衣服の繊維の間に入り込むと抜けなくなります。実を引っ張ると



柄の部分で取れてしまって、棘付きの穎は残ってしまいます。取るためには向こう側に追いつくしかありません。「ひつつき虫」を取ってもいつまでもちくちく刺さります。

動物にくっ付きやすく、種子の部分だけはさっと離れて分布を広げる、これがササクサの戦略です。

